

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立静原小学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かに学力	授業改善 主体的に考え方、表現し、伝えられる能力の育成	各教科での言語活動のさらなる充実 全クラス授業公開の校内研究	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の話す・聞く態度の変容 ・ジョイントプログラムの結果
	家庭学習の習慣化	学校だよりによる啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・平日は授業以外に平均何時間勉強していますか
	読書の習慣化	100冊読書の定着 朝読書の確実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・平日は平均何時間家や図書館などで読書していますか
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や家族を大切にしていますか ・きまりをしっかり守っていますか
	望ましい言葉づかい・進んで挨拶の徹底	児童会を中心とした発信と地域ぐるみの取組	子どもは望ましい言葉づかい進んで挨拶ができると思っていますか
	協働活動を通した豊かな心の育成	各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・家の仕事の手伝いをしていますか ・きまりを守っていますか
健やかな体	自他を大切にする態度の育成	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 健やかチェック実施	就寝・起床時刻・朝ごはん食べているか
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全校遊びやスポーツを通して運動の習慣化 ・モーニングスポーツの取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からすすんで体を動かしていますか ・スポーツ参加状況及び体力テストの結果
独自の項目	学習環境整備・安全管理 地域と共に進める体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全ボランティア登下校支援 ・校内整備点検の実施 ・農林業活動、環境学習等実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は学習しやすいか、安全か」 ・体験学習の実施回数、内容
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数

自己評価			
評価日	平成28年10月6日	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラム5年の国語・算数は全市を5ポイント上回る。6年の国語は下回るがが算数は大きく上回る。 ・「学年×15分以上勉強している」児童の割合は78% ・9月の読書100冊以上達成は20%残りは、50冊を越えている。 ・「できている」児童の割合は90% ・「進んで挨拶する」児童の割合は、95% ・住んで掃除や仕事をする「そう思う」児童は90%。保護者から見た評価は33%。 ・「学年相応の睡眠時間が取れている」児童の割合は82% ・「運動したり遊んだりしている」児童の割合は90%・参加児童数は約5割 ・小中合同の研修を行った。 ・体験活動よかったです。 ・地域行事参加の児童は90%越。教職員の指導、参加は80%、60%。 ・アクセス数7500を超えており、昨年総数14000と考えると昨年より増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表する場を意図的に多くしていることで主体的な聞き方ができるようになってきた。 ・「自ら勉強する」「忘れず学習に使うものを黙りすぎる」70%程度と関係が深い ・読書100冊への取組を進めてきている。本の種類に偏りがあるのいろいろなジャンルも読むように進めている。 ・「自ら勉強する」「忘れず学習に使うものを用意する」ことを進んでいくような指導をすすめる。 ・自分の掃除場所を決めて掃除に取り組み、教職員と共に活動していることによる効果と考える。 ・確実にあいさつをするように指導している。 ・「そう思う」児童38%、「大体そう思う」児童52%というように、家でも進められる児童が38%である。 ・早寝・早起き・朝ごはんができる割合は90%を目指したい。 ・体を動かすことが好きな児童の割合が高まっている。 ・体験活動等地域と共に進めている学習についての教職員の主体的な関わりにばらつきがある。 ・HPの更新数増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで学習するよう取組をすすめていること、キャリア教育の視点での目標も意識して個の見取りを進めていることによると考えられる。 ・「自ら勉強する」「忘れず学習に使うものを用意する」ことを進んでいくような指導をすすめる。 ・自分のやるべきことの自觉のメニューを広げていく指導をする。 ・学校に来られる方との体験学習も多くなっている。感謝の気持ちを更に相立てていきたい。 ・掃除だけでなく、自分で気づいて実行に移せるように指導を進めていく。仕事をする意味の理解をすすめる。 ・健やかチェックの活用。保健室などだけでなく、食育指導、栄養指導を煤めしていく。 ・朝の運動、中間マラソン等の運動時間を効果的に運動に使う。 ・体験活動等児童にどんな力を付けるのかしっかり考えて進めるようにしていかたい。 ・個の見取り、学習評価点検と連動させて取り組んでいく。 	

学校関係者評価	
評価日	平成28年10月21日
評価者 (いざれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・児童のしっかり話す姿、外国の方にも物おじせず自然にコミュニケーションをとるなど取組の成果と考えられる。自分の思いや考えを発表する力はついている。 ・自分でやりきることの不十分さを感じる。 ・児童にとって学校が楽しいことは大切なことである。進んであいさつも90%を超えている。 ・中学で急に人数が増えて戸惑うかもしれないが、数か月もすれば慣れるので心配はない。 ・子どもが地域行事へ出演するようになったのは、当時のPTAが豊かな経験のために様々な発表の場を探し出演するようになった。 ・子どもたちが元気に運動したり遊んだりしていると思う。 ・子どもの塾通いが多くなっている。教師も子どもも忙しいと取組に影響しているのではないか。 ・体験活動等地域と共に進める学習について児童と教職員とのギャップが大きい。教職員の自覚的実行力のレベル向上が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとる場面の設定や相手として体験活動等の協力をしていきたい。最後まで考える子どもの育成、やり遂げるまで見守ることが大事である。 ・学校が目指している自覚的実行力という力が漠然としているのではないか。より具体的な目標設定が必要ではないか。 ・楽しく学校生活を送ることにつながる体験活動のサポートをしていきたい。たくさん関わることで、親しくなり、挨拶の声も元気になっていくと考える。多くの中で学ぶ経験として他校と交流、ICT活用テレビ会議などを取り入れればいい。 ・地域行事に参加するのは、教育活動としてどんなプラスがあるか考えて進めていきたい。 ・子どもたちが元気に運動したり遊んだりしていると思う。 ・子どもの塾通いが多くなっている。教師も子どもも忙しいと取組に影響しているのではないか。 ・明確な目標設定とその共有が必要となるだろう。 ・地域の行事を子どもの教育の中にどう位置づけるか明確にしていくこと、休日の地域行事への参加が負担となるなら、地域も考え方精進していくべき。地域が主体となって子どもたちにはたらきかけていくようにしていきたい。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かに学力	授業改善 主体的に考え、自ら進んで学習する児童の育成 書く力の向上	各教科での言語活動のさらなる充実 全クラス授業公開の校内研究 問題解決学習の推進。書くことを特に意識した指導を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自ら進んで学習する態度の変容 ・ジョイントプログラムの結果 ・ノートの活用の足跡点検 ・ジョイントプログラムの結果
	家庭学習、読者の習慣化	100冊読書の定着 朝読書の確実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間確認 読書量の確認
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成・進んで挨拶の徹底 協働活動を通した豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・一人一場所の掃除場所を決めて清掃する「一人そくじ」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他ともに大切にしていますか。 ・きまりや時刻を守っていますか。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・教職員全員での清掃指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで掃除や自分の仕事をしていますか。
健やかな体	自他を大切にする態度の育成	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 健やかチェック実施	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気をつけて生活していますか。 ・健やかチェックの調査
	体力の向上	・全校遊びやスポーツを通した運動の習慣化 ・モーニングスポーツの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく運動したり遊んだりしていますか。 ・マラソン大会での成果確認
独自の項目	自覚的実行力の推進	・主体的活動ができるように指導を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自覚的実行力を意識して生活していますか。 ・個の見取りを確実に意図的にする。



自己評価			
評価日	平成29年2月23日	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラム国語 全市比110%・算数全市比119%の通過率 ・「書くこと」の取組を朝学習や授業で意識してすすめた。 ・「読書100冊」全員達成。 児童へのアンケートで家庭学習を進んでするとの回答が、ほとんど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯時間も含めて、書く事、ノートに書くことを意識して授業を進めたことにより、主体的な学びにつながった結果と考えられる。 ・授業における「めあて」～「ふりかえり」を書くことの徹底が学力向上につながったと考える。 ・100冊読書達成児童を表彰で、読書時間が増加。貸出回数も増加した。読み聞かせの本紹介も効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの良い例の交流、書く内容の交流をしながら、自分のノートの振り返りをさせていくと、自主学習も含めて効果が上がる。 ・繰り返しの計算や漢字などの練習も数多く取り組むようになつたことも結果につながっている。 ・「読書100冊」の全校での報告、本の紹介をさせた 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで挨拶をするとの回答が、ほとんど。 ・進んで掃除や自分の仕事をすることは、学校ではほとんどができていると回答している。家庭でとなるとできている割合が下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の挨拶だけでなく、掃除の時間を全教職員で児童と関わり名が進めたことで、人間関係が密になり、自然にあいさつやコミュニケーションをとることができるようにになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々と協働活動し、励ましやお褒めの言葉をもらった児童が多く、自己有用感の向上にも繋がったものと思われる。今後も児童が様々な立場の方と接する機会を作りたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「早く寝る」は中高学年になるとできている値が50%70%と下がる。「早く起きる」は中学年が75% ・5年生の体力運動能力テストは、全国や京都府平均をはるかに上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ごはんができる割合は健やかチェックを統計しているので、定期的に意識して進められるようになっている。 ・体を動かすことが好きな児童、主体的に動こうとする割合が高まり、モーニングスポーツへの参加が早く出来るようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立に向けての取り組み方、評価規準の設定は、児童の望ましい姿(起きる時刻の目安)を目標とできるようにしていくと家庭とも連携できる。 ・運動や遊びの準備も含めて児童が主体的にできるように指導すると、運動のめあてに向かっての活動も主体的になる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自覚的実行力ができた場面の個の見取りをていねいにやり、児童に返すことで、児童のつぎの目標が分かりやすくなつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自覚的実行力ができた場面の個の見取りをていねいにやり、児童に返すことで、児童のつぎの目標が分かりやすくなつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信、ホームページ掲載など機会あるごとに話をするなどして、具体例を挙げるとイメージをもって同じように関わっていただけるようになる。 	



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月14日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・児童個々人でつけられる力はしっかりとつけられるよう指導していただいている。発表の機会が少人数であることでどの子にも保障され、確実に丁寧に指導されている。 ・人数が少なく、遅くても待ってもらえる環境でもあり、それが当たり前になっている。より高いものをめざす刺激が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書数も後期増えている。本に親しんでいけるように、学校運営協議会の読書部会のメンバーを増やすことを検討する。 ・子どもたちの主体的学びに向けて、体験活動のサポートをしていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での仕事をさせる事は、大切だ。身に付けた力が、どこに行つてもできるように仕事を決めてさせたい。家庭との連携をしっかりとしてできたかどうかの検証もする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事での子どもたちの活動も責任のある役割を割り当てられるようにして進めていきたい。 ・学校運営協議会の体験活動部会において進める活動も、児童が主体的に進める活動となるように進めていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活や基本的生活習慣は、小学生の段階で身に付けておくべきである。 ・スマホやゲームなどで時間を使うことや依存になつてゐる話を一般的に聞く。時間の使い方早寝早起き朝ごはん等、誰が見ても同じ視点で評価できることで基本的生活を安定させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもも大人も楽しめるスポーツを学校運営協議会の安全・福祉・スポーツ部会で検討していきたい。 ・盆踊りを児童も一緒にしているが、やり方が分かっていないところもあり、練習会も考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信による効果は大きい。自覚的実行力の推進につなげられるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針を理解して協力していきたい。体験活動の支援をするときは、学校と同じ方向でできるように協力していきたい。

3 総括・次年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・学びの質を高めるため、少人数だからうまく出来ている事もあるが、人数が少ないために伸びしきっていないことがある。自覚的実行力の育成に向けて、地域・保護者と連携して共に考えて進めていかなければならない。 ・自覚的実行力を発揮する場面が多くなってきており、主体的に問題に向かって取り組む姿も増えている。学習へも主体的に取り組むことで学力テストの結果もよくなつてきている。この流れをより強固なものになるように日常の指導をしていきたい。 ・地域行事も児童を育てる大事な機会である。学校で考えている事と同じ視点で進められるように連携していきたい。保護者連携も同じ視点で進められるようにしていきたい。学校評価をいかしていく。
--